

群馬県立吾妻特別支援学校

特別支援教育の支援センターとして



皆さんを応援します！

お申込み・問合せは、専門アドバイザー（毒島久幸）までお願いします。

【相談支援室】

電話番号（学校）0279-51-1111 FAX 番号（学校）0279-75-3701

メールアドレス（アドバイザー専用）agatoku-sn01@edu-g.gsn.ed.jp

住 所 〒377-0423 群馬県吾妻郡中之条町伊勢町 1035-1

（群馬県立吾妻特別支援学校小中学部校舎）

特別支援教育 Q&A

巡回相談等で大変お世話になっております。今まで各種相談で質問いただいたことなどを Q&A の形で通信の中で紹介させていただくことで、特別支援教育に関する理解を深めていくことにつなげていければ、と思います。

【困り感のある児童・生徒に対しての指導・支援について】

【指導上の困り感のある児童・生徒を担任する先生より】

学級の中に、多様な困り感のある児童が複数いる場合には、担任・支援員の TTによる指導でも手が回らない。そのために、授業が落ち着かずにその日の目標まで授業を終わらせることができないことが多い。どのような指導が良いのでしょうか？

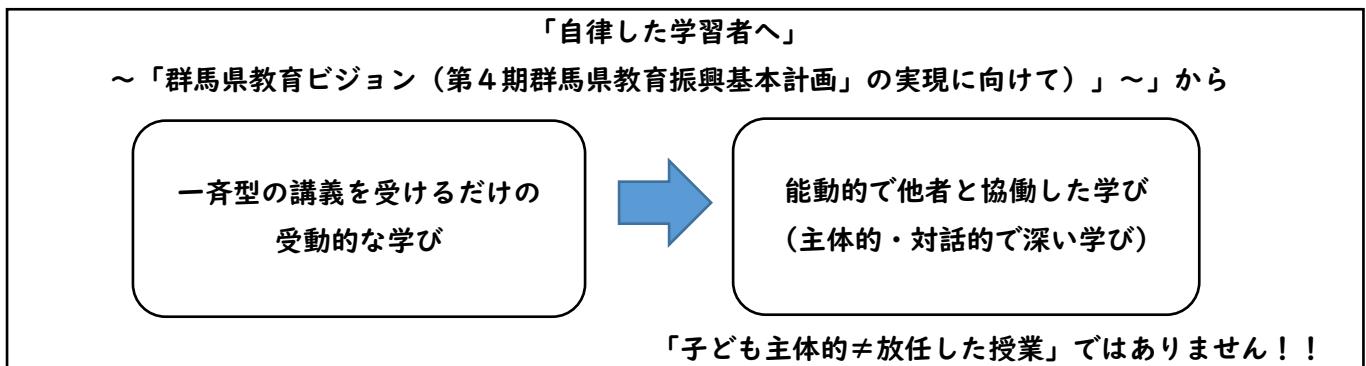
児童・生徒の「主体的・対話的で深い学び」の授業はいかがでしょうか？

教師が主導となって話を進めたり、全ての児童の指導を2～3人で行っていたらしく限界があります。学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」の充実を図り、子ども中心の学びの実現を考えてみてはいかがでしょうか

困り感のある児童・生徒のいる授業のケース（例）

- 授業についていける子だけが発言し、先生とできる子だけで授業を進めている。
- 授業中に勝手に話してしまう児童・生徒の話に教師が関わってしまい、授業が進まない。
- 困り感のある児童・生徒の支援を教師と支援員が丁寧に行っているので、他の子どもたちが学習に飽きている。
- 教師が主導となった講義形式の授業で、授業中に子どもたちの発言や活動のほとんどない。など

このようなケースに対して、群馬県教育委員会より「エージェンシーを発揮するための学びを推進するリーフレット」を参考にしてみてください。



【特別支援教育との関係について】

子どもたちの困り感は多様性があり、一人の先生、そして支援員が入っての指導や支援には限界があります。次のように考えると、困り感の多様性に対応することができます。

1. 子どもが自分にあった方法で学ぶ。（それぞれがもつ得意な面を生かす）
 - ・ 自分に合った学びを見つけることで、教師の支援をしなくとも学ぶことができます。
 - ・ 教師は、子どもの得意な面を生かした学びに導き、一人でも学ぶことができるサポートをします。
2. 学び合いの中で、子ども同士が自分の困り感を補い合って学ぶ。
 - ・ 自分で学んだことを話し合いながら、自分の困難な部分を補完できるようにします。
 - ・ 教師は、困り感の特性によって話し合いが難しいグループで簡単なサポートを行います。
3. 主体的・対話的な学習でも困難さがある児童・生徒が明確となり、適切な支援を行える。
 - ・ 障害が認められる児童生徒だけでなく、他にも学習に困難さを持つ子どもが明確になるので、その子に対して必要なサポートを行うことができます。

【特別支援教育を「誰にでも分かる指導」へ】

「特別支援教育＝障害のある児童生徒への教育」と捉えている方々がいらっしゃると思いますが、決してそのようなことはありません。特別支援教育の知識や技術、思考は、通常の学級でも活用することが可能であり、実践することによって「誰にでも分かる指導」につなげることができます。

ノーマライゼーションの理念を基に「インクルーシブ教育」が求められてきていますが、「障害の有無に関わらず」とあるので、障害がない子どもたちにとっても有益な指導であることになります。子ども一人一人が持つ学びの優位性を生かした指導として「主体的・対話的で深い学び」が根本となればと考えます。困り感のある児童生徒の対応に困られている先生に限らず、本サポート通信が皆様の役に立てれば幸いです。